

旭川工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	見学旅行	
科目基礎情報							
科目番号		0026		科目区分	/		
授業形態				単位の種別と単位数	: 0		
開設学科		物質化学工学科		対象学年	4		
開設期				週時間数	0		
教科書/教材							
担当教員		後藤 孝行,宜保 達哉,三井 聡,松浦 裕志					
到達目標							
① 企業等における生産現場の施設・設備およびその生産過程を見学することを通して、学校で習得した専門の知識・技術がどのように応用されるのか説明できる。 ② 企業等における生産現場の施設・設備およびその生産過程を見学することを通して、企業活動を理解し、説明できる。 ③ 企業等における生産現場の施設・設備およびその生産過程を見学することを通して、今後のキャリア形成に役立てることができ、そのために求められる能力などを考えることができる。 ④ 企業見学や団体行動を通して、学友の親睦を深めるとともに、社会の一員として必要なルールを遵守でき、他者に配慮した行動がとれる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		
評価項目1		企業等における生産現場の施設・設備およびその生産過程を見学することを通して、学校で習得した専門の知識・技術がどのように応用されるのか説明でき、今後の学習活動に対しても、そのような観点を持つことの重要性が認識できる。			企業等における生産現場の施設・設備およびその生産過程を見学することを通して、学校で習得した専門の知識・技術がどのように応用されるのか説明できる。		
評価項目2		企業等における生産現場の施設・設備およびその生産過程を見学することを通して、企業活動を理解し、説明できる。			企業等における生産現場の施設・設備およびその生産過程を見学することを通して、企業活動を理解し、説明できる。		
評価項目3		企業等における生産現場の施設・設備およびその生産過程を見学することを通して、今後のキャリア形成に役立てることができ、そのために求められる能力や具体的な行動を考えることができる。			企業等における生産現場の施設・設備およびその生産過程を見学することを通して、今後のキャリア形成に役立てることができ、そのために求められる能力などを考えることができる。		
評価項目4		企業見学や団体行動を通して、学友の親睦を深めるとともに、社会の一員として必要なルールを遵守でき、他者に配慮した責任ある行動がとれる。			企業見学や団体行動を通して、学友の親睦を深めるとともに、社会の一員として必要なルールを遵守でき、他者に配慮した行動がとれる。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		北海道内の企業を見学する。見学し学んだ内容を通して、企業活動理解を深め、自身のキャリア形成に役立てる。また、企業見学や団体行動を通して、他者への配慮や社会の一員としてルールを身に付ける。					
授業の進め方・方法		見学旅行のしおりを参照。					
注意点		見学旅行のしおりを参照。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	目標の実現に向けて計画ができる。		3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。		3	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。		3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。		3	前1
				法令やルールを遵守した行動をとれる。		3	前1
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。		3	前1
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。		3	前1
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。		3	前1
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。		3	前1
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。		3	前1
				企業には社会的責任があることを認識している。		3	前1
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。		3	前1
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。		3	前1
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。		3	前1
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。		3	前1

				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	前1
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	前1
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	前1
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	前1
評価割合						
	報告書					合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	100	0	0	0	0	100